

株式に旬はあるか？

—カレンダーアノマリーの個別銘柄における検証—

岡田 克彦 羽室 行信
ステファニー・チュング

目 次

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. はじめに | 4. 実証結果 |
| 2. 季節性研究の中での本研究の位置付け | 5. 頑健性の確認 |
| 3. 検証モデル | 6. 結論 |

本稿では、超長期にわたって主要株式市場で観察されているハロウィーン効果／デカンショ節効果を、実務的に収益化する手法を提案する。こうした季節性変動は、ファンド・マネジャーの評価時間軸を超えて発生するが故に放置されているが、個別銘柄の季節性変動（旬）を探索しながら銘柄を組み合わせることで、収益化が可能となる。ここで提案する手法を多くのパラメーターを用いて実験した結果、規模効果、バリュエーション効果を考慮後も安定的な α の源泉になり得ることが分かった。



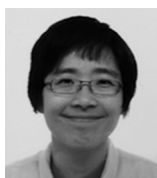
岡田 克彦（おかだ かつひこ）

関西学院大学大学院経営戦略研究科教授、(株)Magne-Max Capital Management CEO / CIO。1990年モルガン・スタンレー証券ニューヨークAssociate、91年同社東京支店トレーダー、92年UBS証券東京FVP、97年にシンガポールのヘッジファンド共同創業者を経て05年よりアカデミアに転身。専門はBehavioral Asset Pricing。行動経済学会副会長、学術雑誌『行動経済学』編集長、公認会計士試験委員。



羽室 行信（はむろ ゆきのぶ）

関西学院大学大学院経営戦略研究科准教授、(株)NYSOL代表取締役を兼任。科学技術振興機構ERATO、CREST等多くの国家研究プロジェクトの主たる研究者を歴任。多くの企業受託研究を手がけている。著書に『データマイニングとその応用』（朝倉書店）。日本OR学会事例研究賞を2005年、08年、15年に受賞。人工知能学会金融情報学優秀論文賞、データ解析コンペティション最優秀賞など受賞多数。論文多数。



ステファニー・チュング (Stephane Cheung)

科学技術振興CREST研究員。南カリフォルニア大学経営学部卒、南洋工科大学大学院でMBA取得後Monetary Authority of Singapore 研究員となる。その後National Institute of Education, Singapore Manager、科学技術振興機構ERATO湊離散構造処理系プロジェクト技術員を経て現職。